

# 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プラン

(素案・2016.12.7)

## 1. これまでの経過

- (1)平成 28 年 7 月 22 日の当館協議会で、「今後の当館の活動を進めるためのビジョンやプランが必要」との意見具申がなされました。なお、同協議会は審議会ではないので、諮問と答申という方法による策定は行いません。
- (2)平成 28 年 8 月 17 日の定例教育委員会において、本計画を策定することが決定されました。
- (3)その後、第 2 次飯田市教育振興基本計画等の策定状況を見ながら、各分野の評議員会から意見をいただき、教育委員会事務局での検討を踏まえ、素案の検討と作成を進めてきました。

## 2. これからの進め方

- (1)パブリックコメントを平成 28 年 12 月 20 日から平成 29 年 1 月 29 日まで行います。
- (2)パブリックコメントの意見を参考にするとともに、当館協議会および評議員会、教育委員会事務局等での検討を経て、案を作成します。
- (3)教育委員会としての「案」の決定を 3 月定例会(3 月 10 日)にて行います。
- (5)飯田市議会全員協議会(3 月定例会最終日)に「案」を説明し、公表します。

飯田市美術博物館

# 目 次

はじめに	1
第1章 飯田市美術博物館の概況	2
1. 飯田市美術博物館の基本テーマと活動方針	
2. 飯田市美術博物館の概況と主な沿革	
3. 飯田市美術博物館を取り巻く状況の変化	
第2章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの策定について	4
1. 策定の趣旨	
2. 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの位置づけと構成	
3. 計画の期間と進行管理	
4. 上郷考古博物館について	
第3章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン	6
1. めざす姿	
2. 重点目標	
3. 学芸活動の取組方針	
4. 各分野のテーマ・活動方針と重点的な取組	
第4章 飯田市美術博物館 2028 基本プラン	13
1. 調査研究	
2. 資料の保存収集	
3. 展示公開	
4. 教育普及	
5. 学芸活動の体制	
6. 管理運営業務	
7. 前中後各期の達成目標と重点的な取組	
8. 前期 4 年間の主な取組	

はじめに

博物館や美術館の目的は、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすること(博物館法第2条)」です。

わが国の博物館の始まりは、明治5(1872)年に、東京の湯島聖堂に開設された文部省博物館とされています。このわが国初の博物館を実現した人物こそ、飯田出身の田中芳男です。博物学(本草学)と医学を学んだ田中芳男は、博物学者として様々な文物を集めて整理分類して分りやすく展示公開し、集めた文物の違いと有用性を調査して、より効果的な活用法を研究しただけではなく、明治政府の官僚として全国各地を訪れ、主に農林漁業の発展のために実践的な指導も行い、殖産興業を通じてわが国の近代化に貢献しました。

彼は、人々や社会が豊かになるために、博物学の成果を生かす実践を行ったのです。その思想と行動の背景には、父から学んだ「三字経」の教えがあるようです。「三字経」とは、中国の古典的な漢字の教科書のようなもので、その内容をごく簡単に意識すれば、「生き物には世の中で果たす役割がある。人の役割はよく学んで、豊かな未来をつくることである。」というものです。彼は晩年、「三字経」の一部を好んで揮毫しています。

田中芳男の思想や行動から、彼が博物館に込めた思いを酌み取るとすれば、博物館の使命は、「物をして雄弁に語らしめ(物が持っている情報をいろいろな視点、角度から伝えるために、調査研究・資料の収集保存・展示公開・教育普及といった事業(以下「学芸活動」という。)を行い、学術文化の発展に寄与し、もって人々の生活文化を豊かにして、未来の社会の創造に寄与すること」と言えるでしょう。

平成28(2016)年、飯田市美術博物館(以下「当館」という)は、田中芳男没後百年記念特別展「日本の近代化に挑んだ人びとー田中芳男と南信州の偉人たちー」を開催し、当館にゆかりの深い菱田春草や柳田國男、日夏耿之介ら40人余りの人物と業績、互いのつながりなどを紹介しました。ここで紹介した人びとは、様々な分野で日本の近代化に貢献していますが、地方としては驚くほど多彩です。

「日本の博物館の父」と言われる田中芳男の出身地にある当館には、こうした人々を輩出した地域性(飯田らしさ)を、「伊那谷の自然と文化」・「自然と人間とのフュージョン(融合)」という視点から明らかにして、地域の未来の創造に少しでも寄与していく使命があります。

<b>光於前</b> <b>裕於後</b>	<b>揚名声</b> <b>顕父母</b>	<b>上致君</b> <b>下泽民</b>	<b>幼而学</b> <b>壮而行</b>	<b>人不学</b> <b>不如物</b>	<b>蚕吐糸</b> <b>蜂釀蜜</b>	<b>苟不学</b> <b>曷為人</b>	<b>犬守夜</b> <b>鷄司晨</b>
前を光(て)らし 後を裕(ゆた)かにせよ 先祖をかがやかし、子孫をゆたかにせよ	名声を揚げ 父母を顕し そして名声を上げ、父母を顕彰し、	上は君を致し 下は民を沢(うるほ)し 上は国のために力を尽くし、下は黎民に幸せをもたらすのである。	幼にして学び 壮にして行ふ 幼くして学び、壮年になり官につきその道を行い、	人は学ばなければ、物にも及ばないのである。 人学ばずんば 物に如(し)かず	蚕は糸を吐いて絹をもたらし、蜂は蜜を釀す。 蚕(さん)は糸(いと)を吐き 蜂は蜜を釀す	苟(いや)しくも学ばずんば 曷(なん)ぞ人と為さん もしも人が学ばなければ、どうして人と称することができよう。	犬は夜を守り 鷄は晨(あした)を司る 犬は夜に家を守り、鷄は夜明けを告げ、それぞれ人の役に立っている。

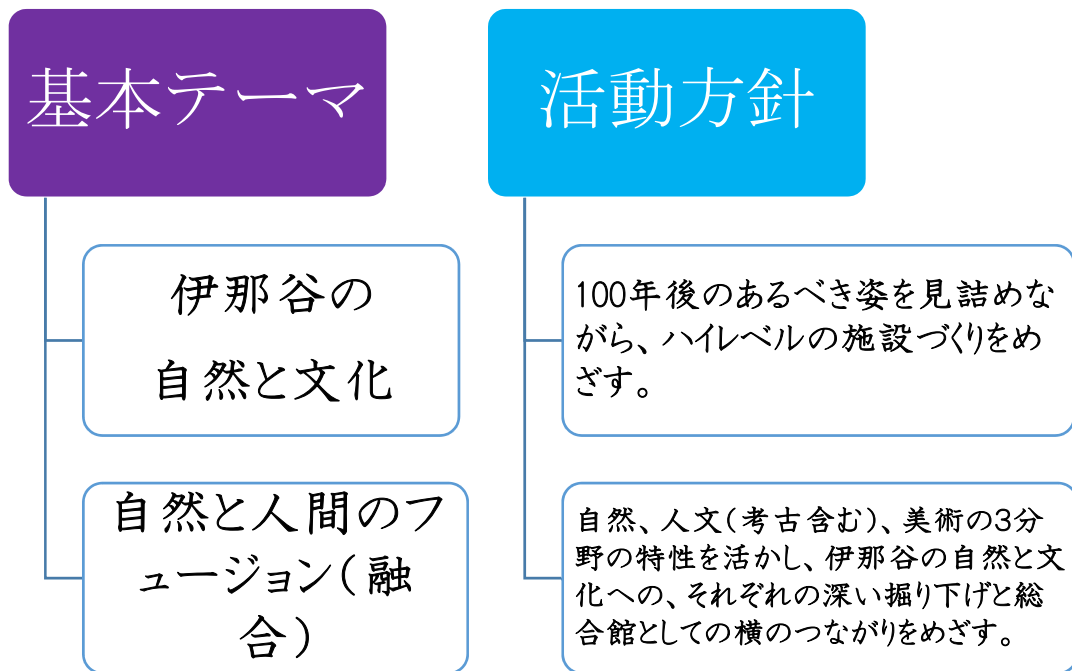
## 第1章 飯田市美術博物館の概況

### 1. 飯田市美術博物館の基本テーマと活動方針

飯田市美術博物館(以下「当館」という。)は、「伊那谷の自然と文化」・「自然と人間のフュージョン(融合)」という基本テーマを掲げ、「美術、自然科学及び人文科学に関する資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、展示して、市民の利用に供し、その教養、調査研究等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究を行う(飯田市美術博物館条例第 2 条)」ために、自然(プラネタリウムを含む)・人文・美術の3分野を有する総合博物館として、平成元(1989)年に開館しました。

以来、「100年後のあるべき姿を見詰めながら、ハイレベルの施設づくりをめざす。」「自然、人文(考古含む)、美術の3分野の特性を活かし、伊那谷の自然と文化への、それぞれの深い掘り下げと総合館としての横のつながりをめざす。」という基本的な活動方針のもとで、市民団体等と協働しながら、伊那谷の自然と文化の特徴や環境と人の営みとの関わりを探りながら、当地域の人々の営みの背景、要素、特徴、精神性といったものを明らかにし、人々の生活文化が豊かになるための学芸活動を行ってきています。

こうした地道な取り組みの継続により、当館は市民をはじめとする多くの皆さんに、学びを提供する中核的な社会教育機関として、広く認められるようになっていきます。



### 2. 飯田市美術博物館の概況と主な沿革

当館には、自然と人文の常設展示室、美術展示室(菱田春草記念室)、展示室A・Bの企画展示室、市民ギャラリー、講堂、科学工作室、プラネタリウム等の施設を有した本館と、その附属施設である「日夏耿之介記念館」と「柳田國男館(国登録有形文化財)」があります。開館当初は収蔵作品が少なく、展示室の閉室期間が少なくありませんでした。そこで館を挙げて努めた結果、年間通じて開室できるようになってきました。

美術分野では、当館の目玉となる菱田春草の展覧会を、平成元(1989)年の開館記念特別展「菱田春草-空間表現の追求-」以来、春草の生誕・没後記念、飯田市制などの節目に開催してきました。また、特徴ある功績を残した郷土作家や大型の作品寄贈に伴う展覧会や三遠南信交流「特別展「ミュージアム・サミット美の競演」、巡回展などを開催してきました。

人文部門では、民俗芸能や文化財をテーマにした「伊那谷の人形芝居」(平成 3 年)、「人形の魔術師 川本喜八郎展」(平成 10 年)、「聖徳太子絵伝が語るもの」(平成 13 年)、「伊那谷の文化財」(平成 14 年)、「遠山霜月祭の世界」(平成 18 年)、「獅子舞」(平成 22 年)、「民俗の宝庫〈三遠南信〉の発見と発信」(平成 24 年)、考古関連の「伊那谷の馬 科野の馬」(平成 9 年)、「黄金の世紀」(平成 23 年)など、時機を得た多彩なテーマで特別展、企画展、特別陳列等を開催してきました。

自然部門では、地学関連の「伊那谷の災害」(平成3年)、「遠山大地変と埋没林」(平成 18 年)、「3.11 東日本大震災3周年 地震と地盤災害」(平成 25 年)、「高山のダイナミズム」(平成 28 年)などを、生物学関連の「生命史 20 億年」(平成9年)、「長谷川コレクション展 I」(平成 10 年)、「チョウとガの魅力」(平成 12 年)、「化石芸術」(平成 14 年)、「ひと・むし・たんぽ」(平成 16 年)、「こんなの見つけた！ ぼくのわたしの里山コレクション」(平成 21 年)、「生き物のこべや」(平成 27 年)などの特別展、企画展、特別陳列等を開催してきました。

また、2部門以上が協力して開催した展覧会には、「風越山」(昭和 63 年 自然・人文)、「日本博物館の父 田中芳男展」(平成 11 年 人文・自然)、「天竜川」(平成 10 年 人文・自然)、「信州の祈りと美」(平成 26 年 人文・美術)などがあります。

この間、平成5(1993)年7月、上郷町との合併によって「上郷考古博物館」が分館となり、「秀水美人画美術館」が附属施設となりました。さらに、平成 16(2004)年4月には「追手町小学校化石標本室」を開設し、翌年 10 月、上村と南信濃村との合併により、「上村山村文化資源保存伝習施設」および同施設付属の「山村ふるさと保存館ねぎや」と、「南信濃民芸等関係施設」の3施設を包含することとなりました。現在、この3施設は、指定管理者により管理運営されています。

設備の面では、平成5(1993)年6月に「電子顕微鏡装置」を導入し、平成 19(2007)年 1 月にESCO 事業による空調設備の更新を行い、平成 23(2011)年3月にプラネタリウムの投影器を「デジタル投影機」にリニューアルしました。なお、開館から 30 年近くを経て、それぞれの施設や設備等の老朽化が進んでいます。

### 3. 飯田市美術博物館を取り巻く状況の変化

飯田市では、平成 10(1998)年に「竹田扇之助記念国際糸操り人形館」、平成 19(2007)年に「飯田市川本喜八郎人形美術館」が開館しました。また、平成 15(2003)年に「飯田市歴史研究所」が設置され、史料を中心に地域の歴史、文化等を科学的、学術的に調査研究し、まちづくりに寄与する活動を行っています。これらの施設は、博物館として登録されていませんが、博物館類似施設として、文化振興事業を行っています。さらに、飯田市教育委員会生涯学習・スポーツ課が「恒川官衙遺跡」や「飯田古墳群」の国史跡指定に取り組むなど、当館の活動と関わりが強い、あるいは重複する取組が行われるようになっており、関係機関等との役割分担と連携を図っていくことが必要になっています。

一方、当館の活動においても、南アルプスジオパーク・エコパークへの関与、伝統民俗芸能の保存継承活動への支援、菱田春草生誕地公園整備への協力など、まちづくりに関連する活動が増えてきています。

今、飯田市は、人口減少、少子高齢化、財政の縮小、経済の停滞といった大きな課題への対応とともに、平成 39(2027)年に開業するリニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を生かすまちづくりを進めることが求められています。そこで、飯田市は、リニア中央新幹線がもたらす大交流時代において、私たちの暮らす地域が超大都市圏の中で埋没することなく、持続可能なまちづくりを進め、魅力を高めていくために、平成 29(2017)年度から平成 40(2028)年度までの総合計画「いいだ未来デザイン 2028」を策定し、また、飯田市教育委員会も同期間の「第 2 次飯田教育振興基本計画」を策定しています。

これらの計画において、「伊那谷の自然と文化」がもつ独自性、多様性、奥深さは、ふるさとを愛する心と飯田の魅力を育み形づくっていく源として認識されています。また、「守るべきものと備えるべきもの」を学び考え、まちづくりに生かしていくことも重要な取組として位置づけられています。当館の活動も、こうしたことを踏まえて、まちづくりや多様化する学びの欲求に応えていくことが期待されています。

## 第2章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの策定について

### 1. 策定の趣旨

リニア時代において、当館が博物館としての使命その使命を果たしていくためには、明確な方向性を持ち、計画的な取組を進めて、まちづくりに寄与していくことが必要です。そこで、当館の今後のあり方や事業活動における基本的な方向を示すビジョンとそれを達成するための取組を示す基本プランとを策定します。

### 2. 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの位置づけと構成

「飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プラン(以下「本計画」という)」は、第6次飯田市総合計画「いいだ未来デザイン 2028」と、その教育分野の計画でもある「第2次飯田教育振興基本計画」とを上位計画とし、後者の社会教育機関別計画として位置づけられるものです。

本計画は、当館のめざす姿(今後のあり方)と、その実現に向けた学芸活動の基本方針および重点目標を示す「2028 ビジョン(以下「2028 ビジョン」という)」と、それを達成するための取組を示すアクションプログラムとしての「2028 基本プラン(以下「2028 プラン」という)」とで構成します。なお、「2028 プラン」は、時代の変化や、制度の改正などに対応するため、本計画の期間を前・中・後期の3期に分け、各期を迎えるごとに具体的な取組(ロードマップ)を定めることとします。

### 3. 計画の期間と進行管理

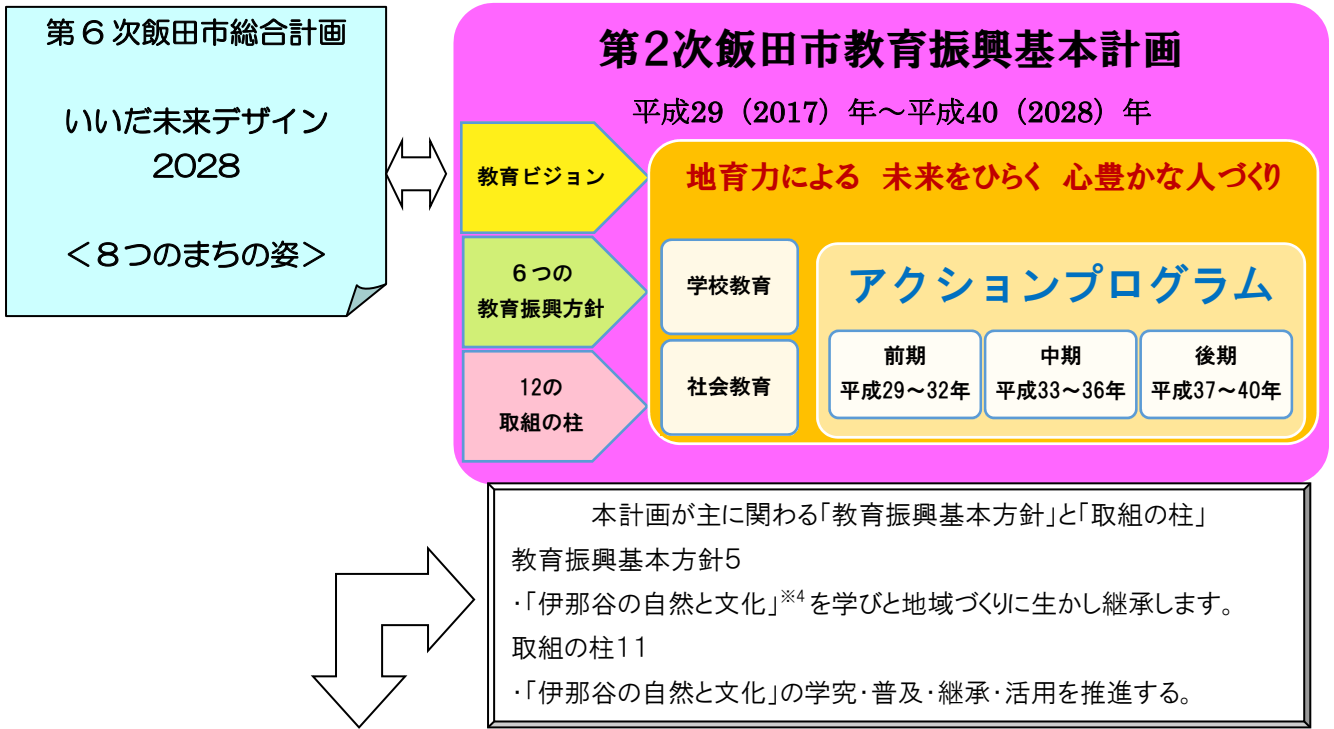
本計画の期間は、上位計画の期間と合わせて、平成 29(2017)年度から平成 40(2028)年度までの 12 年間とします。進行管理は、上位計画と数値目標を共有し、PDCA により行うとともに、必要に応じて見直しを行います。

### 4. 上郷考古博物館について

当館所管の上郷考古博物館は、平成 26(2014)年度に策定した「飯田市公共施設マネジメント基本方針」のなかで、生涯学習・スポーツ課所管の飯田市考古資料館との統廃合について、優先的に検討する施設として位置づけられました。平成 31(2019)年度までに方針を定めるように検討を進めます。

このことを踏まえ、生涯学習・スポーツ課等との連携に配慮しながら、現状をベースに運営することとします。

＜上位計画と飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランとの関係等＞



飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プラン										
計画期間：平成 29(2017)年～平成 40(2028)年										
計画の構成	2028 ビジョン					2028 基本プラン				
分野 部門	自然	人文	美術	プラネタ リウム	考古 博物館	自然	人文	美術	プラネタ リウム	考古 博物館
調査研究	めざす姿(今後のあり方)と その実現に向けた基本方針・重点目標					アクションプログラムと3期に分けたロードマップ・ 前期：平成 29(2017)～32(2020)年 中期：平成 33(2021)～36(2024)年 後期：平成 37(2025)～40(2028)年				
展示公開										
教育普及										
管理運営										

### 第3章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン

#### 1. めざす姿

当館は開館以来、「伊那谷の自然と文化」・「自然と人間とのフュージョン(融合)」を基本テーマとして掲げ、伊那谷の自然と文化の特徴や環境と人の営みとの関わりを探りながら、当地域の人々の営みの背景、要素、特徴、精神性といったものを明らかにして、人々の生活文化が豊かになるための学芸活動を行ってきています。

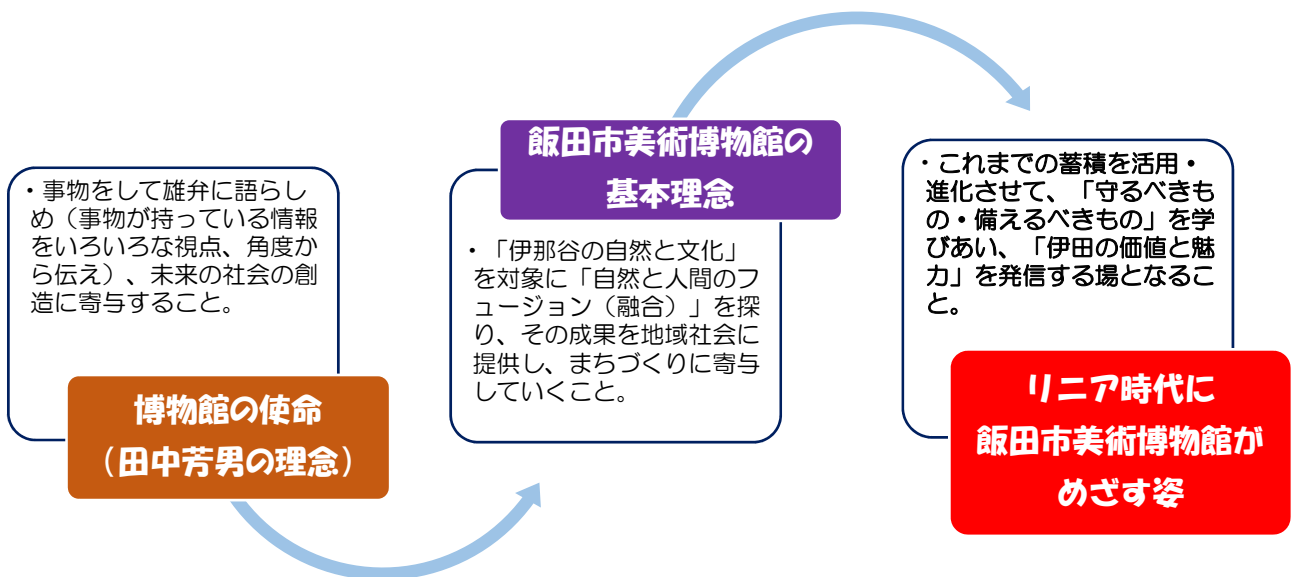
世界や国内との時間的距離が飛躍的に短縮されるリニア時代には、交流が活発化することが予想され、「伊那谷の自然と文化」は、当地域を輝かせ、魅力を発信し、人々をひきつける大きな資源となります。飯田市がまちづくりにこの資源を生かしていくうえで、当館は、設立時の基本構想にうたわれた「伊那谷まるごと博物館」へと誘うセンターとしての機能をさらに高め、他機関と連携しながら、当地域の文化振興のみならず、交流促進も視野に入れた活動を展開していくことを求められています。

リニア時代に臨む当館の使命は、開館以来 30 年にわたって蓄積してきたものを活用、深化、発展させて、「守るべきもの・備えるべきもの」を学びあえるとともに、「飯田の価値と魅力」を発信する場となり、まちづくりに寄与することだと考えます。

こうしたことを踏まえて、当館の 12 年後のめざす姿を、「開館以来の蓄積を活用・進化させ、『守るべきもの・備えるべきもの』を学びあい、『飯田の価値と魅力』を発信するミュージアム」とし、事業活動に取り組みます。

#### 飯田市美術博物館 2028 ビジョン〈めざす姿〉

開館以来の蓄積を活用・進化させ、「守るべきもの・備えるべきもの」を学びあい、  
「飯田の価値と魅力」を発信するミュージアムをめざします。





## 2. 重点目標

めざす姿の実現に向けて、3つの重点目標を定めます。

(1)「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を高め、地域の魅力を広く紹介します。

当館には、エコパーク・ジオパークに登録された南アルプスに関する調査研究、宝庫と言われる民俗芸能や伝統文化等に関する有数の知見、近代日本画を切り拓いた菱田春草をはじめとする豊富な美術コレクション、全天型映像を生かすプラネタリウムなど、「伊那谷の自然と文化」に関する多くの蓄積があります。

今後は、これまでに蓄積した財産を総合的に活用して、「伊那谷の自然と文化」を紹介していく取組を進めるとともに、当館設置時の基本構想が掲げた「伊那谷まるごと博物館」へと誘うセンター機能を高めていきます。

(2)「地域振興の知の拠点<sup>1</sup>」の一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探ります。

東西文化の接点と言われる飯田下伊那は、多様な生活文化を育み伝えてきています。その背景として、険しく複雑な地形の中に張り巡らされている道を通して、多彩な人、文物、情報がもたらされ、地域内で行き交う「交易と交流」があると考えられます。

この地域ならではの「交易と交流」の有り様は、大交流時代のまちづくりの参考となります。「地域振興の知の拠点」の一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探る取組を進めていきます。

(3) 多様な学びに学術的に応え、文化の創造と地育力<sup>2</sup>の向上に寄与します。

当地域には古くより「学びの風土」があります。当館は開館以来、調査研究、教育普及活動において、市民研究団体との協働や他の教育研究機関との連携を大切にしてきました。しかし、近年、当館と協働して活動してきた研究者が高齢化等により減りつつあるとともに、市民の学びの欲求や学び方が多様化してきています。

今後は、こうした学びの担い手や欲求の変化に対応するとともに、市民にとって主体的でリアルティに満ちた学びを進められるように、これまで以上に学術的専門性をいかし、また、市民や教育機関等との連携を強化して、地域文化の創造と地育力の向上に寄与する取組を進めていきます。

### <めざす姿と3つの重点目標>



「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を高め、地域の魅力を広く紹介します。



「地域振興の知の拠点」の一翼を担うべく、「交流と交通」を視点に「飯田の価値と魅力」を探ります。



多様な学びに学術的に応え、文化の創造と地育力の向上に寄与します。

## 3. 学芸活動の取組方針

<sup>1</sup> 「地域振興の知の拠点」とは、これまでに飯田市において取り組まれてきた様々な学術研究や大学等との連携共同の成果を土台として、学術研究ネットワークの発展的な構築を図り、地域内外の知見の融合により新たな価値や文化を創造・発信する機能を整備しようという構想のこと。

<sup>2</sup> 「地育力」は、飯田市の造語で、ふるさとに自信と誇りを持つ人を育む力を意味する。飯田の資源を生かして、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力であり、地域の多様な資源や人材に触れながら体験的に学ぶ過程において発揮・活用される。

近年、博物館・美術館は、本来の学芸活動の高度化専門化を期待されるとともに、その機能を地域振興に生かすことも求められるようになってきました。当館は開館時から、地域重視を基本に市民との協働を図りながら、学芸活動を展開してきましたが、今後ますます学術的な成果や専門的な知見を生かして、地域資源の資産化と未来への継承を進め、まちづくりに生かしていくことが必要になります。そのために、これまでの学芸活動を継続し発展できる体制を確保し、さらに多様な主体との協働を図っていきます。

#### (1) 調査研究

- 「飯田の価値と魅力」を明らかにし、その成果をまちづくりに生かせる調査研究を進めます。
- 「地域振興の知の拠点」の一翼を担うために、他の社会教育機関や「学輪IIDA<sup>3</sup>」等との連携を図ります。
- 市民等と協働する裾野を広め、調査研究活動の担い手の育成に努めます。

#### (2) 資料の収集保存

- 「伊那谷の自然と文化」に関する学術研究の資料センターとしての機能を高めていきます。
- 博物館資料の増加や貴重な文化財や地域資源の収集保管に対応していきます。
- 収蔵場所の確保について、他の教育研究機関等と連携して、検討していきます。

#### (3) 展示公開

- 「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を発揮する展示公開に取り組みます。
- 調査研究成果を活用して、常設展示の部分更新を進めるとともに、まちづくりや市民の学びのニーズに応える展示をめざします。
- 多様な展示方法の導入や展示解説の充実を図り、わかりやすく楽しみのある展示をめざします。

#### (4) 教育普及

- 市民の学びの多様化に対応した取組を工夫するとともに、学び合いの場としての機能を高めていきます。
- 地育力の向上やまちづくりの参考となる教育普及プログラムを提供します。
- 学芸員の持つ専門性や情報網、人脈をいかして、他の教育機関等と連携した教育普及活動を進めます。

#### (5) 活動体制と管理運営

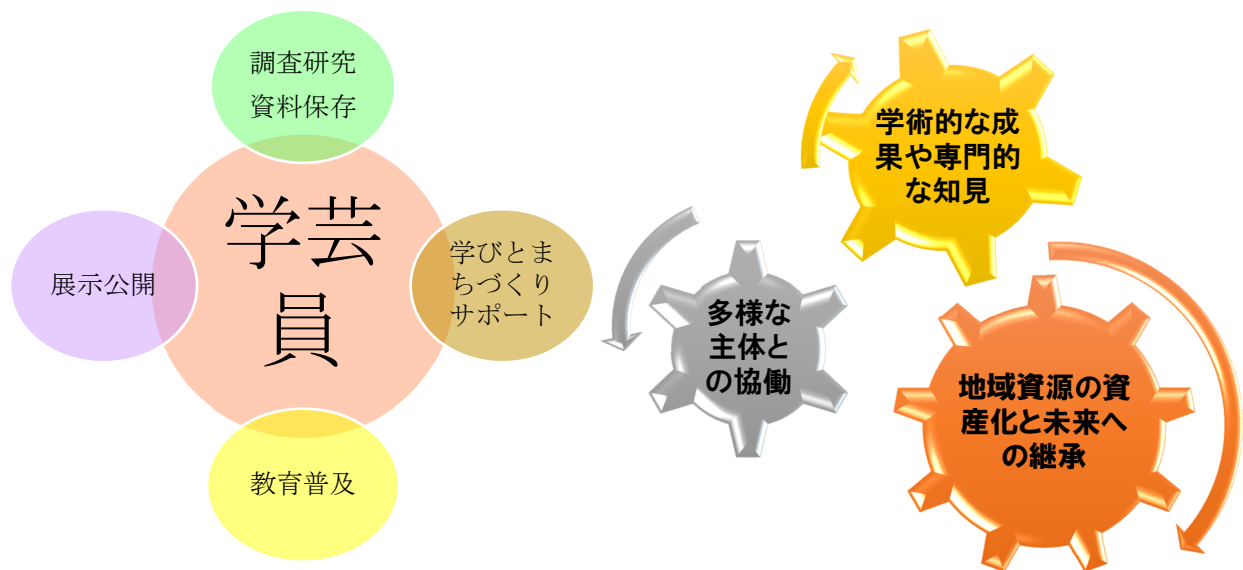
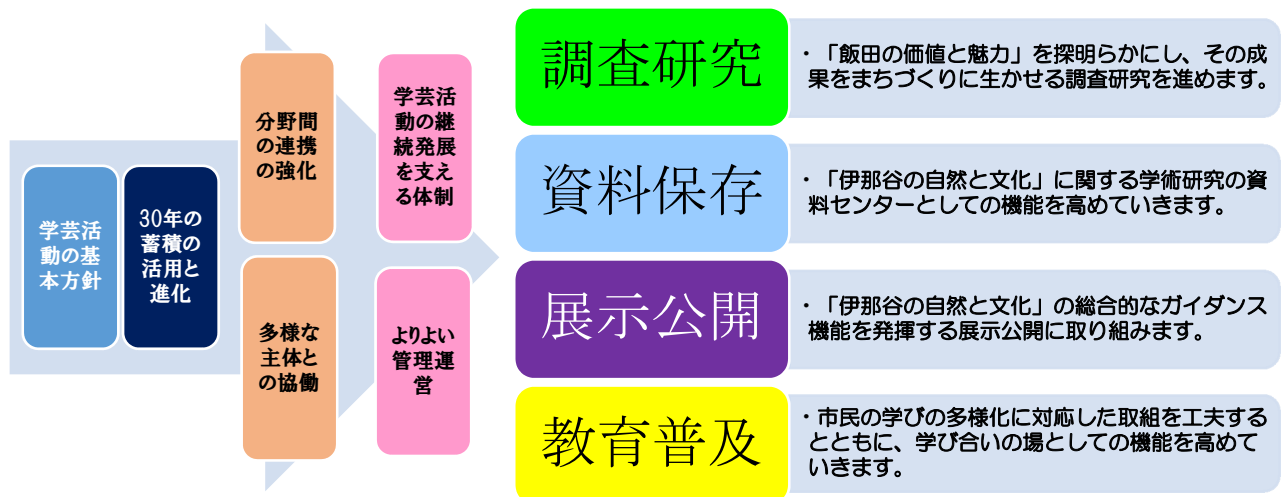
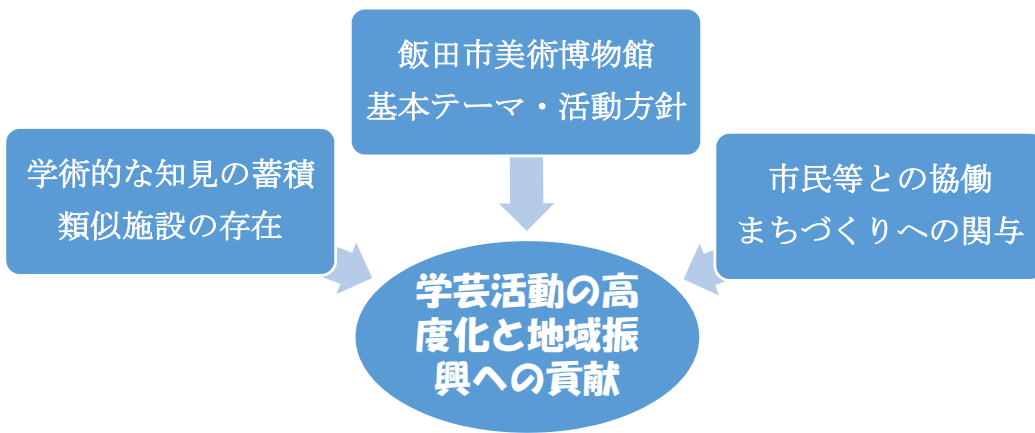
- 学芸活動の継続と発展を支える体制を確保し、市民の学びやまちづくりを支援できる取組を強化します。
- 常に市民に親しまれ必要とされるように、サービスの充実や向上、計画的な施設設備の整備を進めるなど、よりよい管理運営を心がけていきます。
- 海外からの観覧者に対するサービスやPRについて研究します。

#### (6) 多様な主体との協働

- 当館の学芸活動が継続、発展するとともに、地域の研究者や研究団体等の活動が活発になるような協働を進めます。
- 当館と類似または重複する活動を行っている飯田市の施設等との役割分担や、学校教育機関、公民館も含めた連携のあり方を整えていきます。また、周辺地域にある類似施設等との連携や共同事業を進めます。

<sup>3</sup> 平成23年1月、南信州・飯田フィールドスタディなどを通じて飯田市と関係を深めてきた大学・研究者等が、市と各大学との1対1の関係から、飯田を起点として相互につながる有機的ネットワークを形成するために設立。「21世紀型の新しいアカデミーの機能や場をつくる」をコンセプトとし、研究者同士が相互に知り合い親交を深めつつ、モデル的な研究や取組を地域（産業界・教育界・住民・行政等）とともに行っている。

＜これからの学芸活動のあり方のイメージ＞



#### 4. 各分野のテーマ・活動方針と重点的な取組

当館の自然・人文・美術・プラネタリウムの各分野では、それぞれの特質に応じて「伊那谷の自然と文化」を探求してきました。今後は、今までの蓄積を生かして本計画を達成するテーマと活動方針を掲げ、重点的に取組を進めていきます。

##### (1) 自然分野

自然分野では、地質と生物分野から、主に伊那谷自然友の会と連携して、「伊那谷の自然とその成りたち」を探る取組を行ってきています。また、学芸員が中心となって収集した資料や、関コレクション(世界のチョウ)、井原コレクション(伊那谷のチョウと蛾)、飯島コレクション(長野県産陸貝)、長谷川コレクション(世界各地の化石と骨)などをいかした資料センターとしての機能も発揮しています。

こうした取組が、御池山隕石クレーターの見つけ、南アルプスエコパーク・ジオパークの認定などにつながり、伊那谷の自然の「厳しさ、面白さ、多様さ」を明らかにしつつあります。

今後は、今まで以上に「伊那谷の自然の厳しさ、面白さ、豊かさ」をより身近なものとして実感できるようにするとともに、その魅力を広く伝えていく必要があります。



〈中央構造線の露頭〉

テーマ	伊那谷の自然とその成りたちー厳しくも面白く多様な自然ー
活動方針	○オリジナルな調査研究をベースとしながら、地域の生活基盤である伊那谷の自然の成りたちを通じて、その厳しさ、面白さ、多様さを伝えていきます。
重点取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示の更新を行い、伊那谷の自然の特徴と魅力を紹介していきます。</li> <li>・子供達を対象に、伊那谷の自然を学ぶフィールド学習を行います。</li> <li>・暮らしに直接関係する災害や地球環境問題についての教育普及活動を進めます。</li> <li>・南アルプスエコパーク、南アルプスジオパークの魅力を広める活動を支援していきます。</li> </ul>
連携協働の組織等	学校教育課・生涯学習・スポーツ課・環境課・下伊那教育会・ジオパーク協議会・信州大学・ふじのくに地球環境史ミュージアム・長野県環境保全研究所・天竜川総合学習館・(公財)南信州・飯田産業センター・伊那谷自然友の会・伊那谷研究団体協議会など

##### (2) 人文分野

人文分野では、「伊那谷の文化とその特徴」をテーマとし、関係機関や市民研究団体、伝統芸能保存継承団体等と連携して、民俗や伝統的な文化芸能の調査記録、城下町の歴史と文化の発掘、郷土の偉人に関する資料収集と顕彰、考古資料などを対象にした調査研究を進めながら、「飯田らしさ」を探る取組を行ってきています。

こうした取組の中から、当地域の山・里・町の多様で豊かな生活文化は、地理的な状況に加えて、交易と交流によって形成され、「文化の回廊としての伊那谷」という様相を呈していることが明らかになってきました。また、田中芳男の胸像復活運動との協働など、郷土の偉人に関する学芸活動も拡充してきています。



〈当館前庭の「田中芳男」の胸像〉

今後は、こうした成果を活用・進化させて、「飯田らしさ」を継続的に確認し、まちづくりに生かせるような取組を、飯田市歴史研究所や飯田市立中央図書館など関連施設との役割分担や連携のあり方を整えながら、進めていく必要があります。



テーマ	文化の回廊としての伊那谷ー多様で豊かな文化を紡ぐー
活動方針	○これまでの蓄積を生かし、交易と交流という視点から、「文化の回廊としての伊那谷」の歴史と文化の魅力を総合的に伝え、学ぶ拠点としての機能を高めていきます。
重点取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示の更新を行い、伊那谷の文化の特徴と魅力を紹介していきます。</li> <li>・関連する諸機関や施設、地元研究者等と連携をしながら、「飯田らしさとは何か」を幅広く調査研究し、学べる機能の充実に努めます。</li> <li>・南信州広域連合と連携して三遠南信地方の民俗芸能の資産化を進めるとともに、伝統芸能や文化財の保存継承活動への支援を行っていきます。</li> </ul>
連携協働の組織等	飯田市歴史研究所・生涯学習・スポーツ課・南信州広域連合・学校教育課・下伊那教育会・伊那民俗学研究所・伊那谷研究団体協議会・長野県立歴史館・など

### (3) 美術分野

美術分野では、当館設立の基本構想である菱田春草の顕彰を柱に、当地域の美術振興の中心となる施設になるべく活動を続けてきました。菱田春草の顕彰については、開館時から収蔵作品や関連資料の充実を図ってきており、現在、全国でも有数の菱田春草作品コレクションを誇り、企画展示等で紹介するとともに、春草研究センターとしての資料蓄積も進み、さらに、『菊慈童』の購入における市民運動や春草生誕地公園整備事業などにおける協働も行っています。

一方、伊那谷の美術を調査研究し、市民の芸術創造を支援するセンターとしても、郷土作家の作品を中心に、地方都市の美術館としては有数のコレクションを所蔵し、それらの作品に対する学芸活動を展開しています。

また、市民の創作活動への支援としては、平成 12（2000）年度から実行委員会方式による「現代の創造展」を毎年開催し、市民の創作活動の発表の場である市民ギャラリーは9割を超える利用率を維持しています。さらに、平成 14（2002）年度から「子ども美術学校」を設け、学校以外の造形教育の場として多数の児童が通っています。

今後は、こうした蓄積のうえに、「飯田の魅力」を発信するために、菱田春草生誕地の美術館としての訴求力をより強化するとともに、地域の美術活動の担い手の育成などを進めていくことが求められています。



＜春草記念室の展示＞

テーマ	伊那谷の芸術文化ーその心と創造の源ー
活動方針	○全国唯一の菱田春草研究拠点をめざすとともに、交易と交流という視点から伊那谷の芸術文化の特質を明らかにし、新たな創造力を生み出す美術館をめざします。
重点取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菱田春草研究の成果を全国唯一の春草記念室で常設展示するとともに、特別展・企画展を開催し、菱田春草を顕彰します。</li> <li>・地域の創造力を高めるために、伊那谷の美術に刺激を与える取組や、地域に所蔵されている作品の調査顕彰などを進めていきます。</li> <li>・次世代の表現力を高めるために、子供達を対象とした教育普及活動を行います。</li> </ul>
連携協働の組織等	飯田市立中央図書館・飯田市歴史研究所・飯田市各地区公民館・学校教育課・下伊那教育会・菱田春草顕彰団体・地域美術振興団体・伊那谷研究団体協議会・信濃美術館・など

#### (4) プラネタリウム分野

無限に広がる宇宙への興味と関心は、天文に関する様々な文化と宇宙に関する科学・技術の進歩と発展をもたらしています。開館以来、主に子供を対象に、プラネタリウム番組の投影による天文・情操教育を行ってきました。また、平成 23(2011)年にデジタル式投影機を導入してから、和歌山大学と協力して「伊那谷の自然と文化」を記録・紹介するオリジナル番組の制作と投影を行っており、これまでに 17 本の番組がラインナップされています。

今後は、「伊那谷の自然と文化」を紹介するガイダンス機能の強化が求められており、また、地元の官民学が協働して進めている航空宇宙産業の振興に向けて、担い手の育成や天文学教育への関与も期待されています。



＜当館屋上のドーム＞

テーマ	「天文学教育」と「地域発信」の映像ドーム
活動方針	○全天周映像の特徴をいかし、「天文学教育」を推進するとともに、映像による「伊那谷の自然と文化」の発信する拠点をめざします。
重点取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達を対象とした天文学教育の事業とプログラムの開発などを進めます。</li> <li>・「伊那谷の自然と文化」を学び、発信するためのオリジナル番組の制作と投影を行います。</li> </ul>
連携協働の組織等	学校教育課・生涯学習・スポーツ課・下伊那教育会・和歌山大学・飯田御月見天文同好会・など



## 第4章 飯田市美術博物館 2028 基本プラン

本章は、本計画を達成するための取組を示すアクションプログラムとしての「2028 基本プラン」です。学芸活動の部門ごと、また、自然・人文・美術の各分野とプラネタリウム事業ごとに、開館以来の歩みを振り返りながら、現状と課題、活動方針と主な取組を示してあります。なお、学芸活動の各部門において共通する活動方針は、第2章の「3. 学芸活動の取組方針」と、また、各分野の方針と取組は、第2章の「4. 各分野のテーマ・活動方針と重点的な取組」の記載と重複している部分があります。

### 1. 調査研究

調査研究は、学芸活動の基本をなすもので、その内容は学術的な評価に耐えうる水準を求められるとともに、その成果は、研究紀要等の形で公表するだけでなく、展示公開や教育普及において、利活用するものです。

調査研究は、期間を限って集中的に取り組む場合や継続的に行う場合がありますが、いずれの場合でも目的と対象を明確にすることが重要です。また、様々な学術研究の動向や成果への目配りはもちろん、それぞれの学芸員が専門とする分野より広いものを扱うことが求められるため、多くの研究者等との協力が大切です。

#### (1) 現状と課題

当館の調査研究活動は、自然分野では伊那谷の成り立ちと自然環境を、人文分野では民俗や歴史文化の領域から人々が紡ぎあゆんできた生活文化を、美術分野では春草を中心とする郷土作家の芸術性を、それぞれのテーマとして、市民研究者や地域の研究団体等と協働して地道に続けてきています。調査研究の成果は、『研究紀要』（現在 23 号）や『自然史論集』（同 15 号）を毎年刊行しているほか、調査報告書の類いを数多く刊行して発表するとともに、企画展示や講座・講演会にも生かしています。

開館当初は学術的な調査研究を主としていましたが、自然分野における南アルプスジオパーク・エコパーク認定への関わり、人文分野における民俗芸能や地域の伝統文化の保存継承への関わり、美術分野における菱田春草生誕地公園整備や郷土出身作家顕彰への関わりなど、調査研究の成果を生かして、まちづくりや地域再発見などの取組への関与が増え、地域の皆さんからの期待を寄せられるようになってきています。

今後は、そうした期待に応えるとともに、「飯田の価値と魅力」を高めていけるように、テーマや対象を明確にした調査研究を推進していく必要があります。

一方、特に人文分野において、飯田市歴史研究所や生涯学習・スポーツ課などが取り組んでいる活動との重複なども生じており、調査研究の対象やテーマの選択、成果の活用などにおいて、調整と連携を図っていく必要があります。また、近年、当館と協働して活動してきた研究者が高齢化等により減りつつあることから、市民研究者等の育成も図っていく必要があります。

#### (2) 活動方針と主な取組

共通	方針	○「飯田の価値と魅力」を探求し、その成果をまちづくりに生かせる調査研究を進めます。 ○各分野が、テーマや対象を明確にして、「地域振興の知の拠点」の一翼を担っていく調査研究を行います。 ○市民等と協働する裾野を広め、調査研究活動の担い手の育成に努めます。
	取組	・適時適宜に、調査研究の成果を発表するとともに、展示公開や教育普及にいかします。 ・部門間や他の社会教育研究機関との間で、調査研究テーマや対象の調整を行います。 ・他の社会教育研究機関や「学輪IIDA」等との連携を図ります。
自然	方針	○伊那谷の地形や地質、生物の多様性を対象とした調査研究を通して、飯田の風土を形成

		<p>してきた自然環境の多様性について掘り下げていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天竜川流域の山岳、扇状地、河川などの地形地質および生物相を対象として、伊那谷の自然の特徴を明らかにする調査研究を行っていきます。</li> <li>・南アルプスエコパーク、ジオパークを中心に、その保全活用を前提とした山岳地域の基礎研究を行っていきます。</li> <li>・現在の自然環境を記録し、過去の資料と比較することによって地域の環境変化を明らかにする調査研究に努めます。</li> <li>・地質や古生物を通じて、地史的な環境変化を明らかにする調査研究を行います。</li> </ul>
人文	方針	○飯田下伊那の歴史や民俗芸能、文化財をはじめとする人為的所産(人文科学)を幅広く対象として、飯田らしさとは何かを明らかにしていきます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「交易と交流」という視点からテーマや対象を選び、関係機関との連携を図って、調査研究を進めます。</li> <li>・南信州広域連合と連携して、三遠南信地方の民俗芸能の資産化を推進し、日本遺産の認定を目指します。</li> <li>・各地区の個性を生かしたまちづくりに寄与するために、地域の民俗を調査・記録する取組を継続していきます。</li> <li>・上郷考古博物館、飯田市歴史研究所、生涯学習・スポーツ課との役割分担をしながら連携を深めるとともに、伊那民俗学研究所はじめ地元の研究者との連携を強化します。</li> </ul>
美術	方針	○全国唯一の菱田春草研究拠点をめざすとともに、伊那谷の芸術文化の特質を明らかにしていきます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菱田春草研究拠点をめざして、菱田春草の作品研究と春草が遺した資料を調査し、春草生誕地ならではの春草研究を進めます。</li> <li>・郷土作家・地域コレクションの調査研究を通して、伊那谷の美術における交流の様相とその特色を明らかにします。</li> <li>・伊那谷の美術について欠かすことのできない作品、資料の収集、保存を行います。</li> <li>・市民との協働により、伊那谷の美術の再発見に努めます。</li> <li>・地域の核となる美術館として、他の美術館や大学、研究団体などとの研究交流を進めます。</li> </ul>
プラネタリウム	方針	○プラネタリウムの利活用、全天映像の可能性に関する調査研究を進めます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的な取組や新技術に関する情報を収集し、利活用を検討します。</li> <li>・天文宇宙教育に効果的な番組を選定します。</li> </ul>

## 2. 資料の収集保存

博物館資料の収集は、調査研究と一体をなすもので、一般的には、調査研究テーマに応じて博物館資料を収集する場合と、包括的に収集した博物館資料を詳細に調査し研究する場合があります。また、博物館資料には、標本、文献、文書、作品など様々な種類と形態、材質があり、当館所蔵、当館寄託、借用といった所有形態の違いもあります。従って、博物館資料の収集と保管は、それぞれに適した方法で行う必要があります。さらに、博物館資料の効果的、効率的な利用を図るためには、きちんとした整理・保管が大切です。

### (1) 現状と課題

当館は、開館以来、各分野に関連する博物館資料を収集保管してきました。自然分野では、植物・昆虫・動物の骨格標本・化石・岩石鉱物など 82,592 点(平成 27 年度末)を所蔵しています。人文分野では、歴史・民



俗・考古や柳田國男、日夏耿之介、田中芳男など郷土出身者に関する多数の博物館資料を所蔵しています。美術分野では、「菊慈童」(長野県宝)、「春秋」(含む6点飯田市指定有形文化財)などの菱田春草作品30点を所蔵し、春草のスケッチ、下絵、書簡など多数の寄託資料を保管しており、全国でも有数の菱田春草コレクション、春草研究センターとなりつつあります。さらに、飯田ゆかりの寄贈コレクション(岩崎新太郎コレクション・綿半野原コレクション・井村コレクション・藤本四八コレクション・城田孝一郎コレクション・須田剋太コレクションなど)や郷土出身の作家の作品など多数の絵画作品を所蔵しています。

一方、博物館資料のデータベース化や収蔵品目録の作成を行っていますが、未整理の物もあり、市民や研究者等にとって効率的な利用ができる状態になっていません。

また、近年、本市においても、地域コミュニティや個人が所蔵管理してきた文化財や美術品の寄贈や寄託を依頼されるなど、博物館資料が増える傾向にあり、収蔵場所の拡充が大きな課題となりつつあります。さらに、他の教育研究機関でも博物館資料を収集しており、市全体として地域資産の収集、保存、活用を図るための方針(コレクション・ポリシー)の明確化や保管場所の整備などの対応が求められています。

## (2) 活動方針と主な取組

共通	方針	○「伊那谷の自然と文化」に関する学術研究の資料センターとしての機能を高めます。 ○博物館資料の収集と保存について、考え方や基準を明確化して、対応していきます。
	取組	・収蔵している博物館資料の整理、取捨選択、目録化、データベース化を進めます。 ・ICTを利用したデータベースや情報提供についての検討を行います。 ・収蔵品や寄託品、それらを取る収蔵庫の適切な環境管理を行います。 ・収蔵場所の確保について、他の教育研究機関等と連携して、検討していきます。
自然	方針	○地域の自然史資料と自然教育用基礎資料を中心に、博物館資料の充実を図ります。
	取組	・長谷川コレクションの整理とその保存を進め、利活用を検討します。
人文	方針	○人文科学的に地域を幅広く学べる資料センターとしての機能充実に努めます。
	取組	・散逸や消滅が懸念される地域や個人が管理収蔵している文化財や重要資料の保存管理対策について、積極的に関わっていきます。
美術	方針	○伊那谷の美術について欠かすことのできない作品、資料の収集、保存を進めます。
	取組	・市民と協働して、伊那谷の美術の保存と継承に努めます。 ・菱田春草作品等の増強に向けて、基金の充実に努めます。
プラネ タリウム	方針	○オリジナル番組データの適切な保存に努めます。
	取組	・データの適切な保存ができるように機器等の計画的な更新を行います。

## 3. 展示公開

展示公開は、博物館・美術館の機能の中核をなすもので、人々の生活文化の向上や学びの発展に寄与するために、調査研究の成果を、物や情報を活用して広く分りやすく公開する活動です。多くの博物館・美術館は、常設展示と、企画展・特別展・特別陳列(以下「企画展示等」という)を行っていますが、企画展示等に比重が置かれ、常設展示が疎かになるという問題が指摘されています。また、近年、常設展示を行わない施設も現れるなど、展示公開のあり方も多様化しつつあります。このように、展示公開活動の充実と魅力の向上は、常に課題となっています。

### (1) 現状と課題

当館は、自然分野と人文分野の常設展示を行うとともに、各分野の調査研究の成果や博物館資料を公開する企画展示等をほぼ毎年開催してきました。また、平成 14(2002)年9月に、文化庁の「公開承認施設」の認定を得て、国指定重要文化財等の公開も行っています。

しかし、開館以来、常設展示の更新が行われておらず、また、美術分野では春草記念室が設けられているにも関わらず常設化ができていないなど、学芸活動の蓄積を生かした展示公開は企画展示等に偏っています。そのために調査研究や教育普及といった学芸活動にかかる時間や労力が足りなくなっています。

今後は、「伊那谷の自然と文化」のガイダンス機能を強化するために、部分更新を行いながら常に地域をアピールできるような常設展示を行っていくことが必要です。そして、市民や地域、社会のニーズや関心に応える企画展示等を行うといった展示機能の分担を図る必要があります。また、プラネタリウムを活用して、展示公開と連動した映像投影を行うほか、ICT等の利用や担当スタッフによる展示解説の充実、展示に関する場所や地域に向くアウトリーチ活動などを拡充し、展示公開の学びを深めていけるようにしていく必要があります。

## (2) 活動方針と主な取組

共通	方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を担う展示公開をめざします。</li> <li>○最新の情報を反映するとともに柔軟性をもったわかりやすい常設展示をめざします。</li> <li>○市民の学びのニーズに応え、学びへの刺激となるような展示をめざします。</li> </ul>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示は、自然分野と人文分野を関係づけ、地域外には当地の魅力と概要を提供し、地域の人々には自分たちの住む地域を学べる場となるような更新を行います。また、調査研究活動や資料収集の成果をタイムリーに反映できる空間を常設展示室内に設けます。</li> <li>・企画展等は、地域にとって重要な事柄や市民のニーズに応えるものとして位置づけ、計画的（大規模な特別展や企画展は数年に1回、特別陳列は年1～2回程度）に開催します。</li> <li>・分りやすく興味を持てる展示となるように、プラネタリウムオリジナル番組との組み合わせ、ハンズオン（触れる体験できる）展示やデリバリー（出前）展示など、多様な展示方法を導入するほか、展示解説における ICT の活用やガイド役スタッフの養成などに取り組みます。</li> <li>・今まで以上に、学校教育や地域の社会教育、市民学習団体などが展示を利活用できる仕組みや連携方策を検討し、整えていきます。</li> </ul>
自然	方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊那谷の自然を身近に感じられ、よりよく知ることができる展示をめざします。</li> </ul>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示を「伊那谷の自然とその成り立ち」をテーマにして、伊那谷の自然を地域から読むことができるような展示に更新します。また、人文分野の常設展示とつながるような動線づくりに配慮します。</li> <li>・「伊那谷の自然」を紹介する企画展示等を計画的に開催します。</li> </ul>
人文	方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「交易と交流」という視点から「文化の回廊としての伊那谷」を紹介する展示に努めます。</li> </ul>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「文化の回廊としての伊那谷」をテーマにして、伊那谷の文化や歴史の特徴を物語るような展示に更新します。また、自然分野の常設展示とつながるような動線づくりに配慮します。</li> <li>・「伊那谷の人文」を紹介する企画展示等を計画的に開催します。</li> <li>・散逸が懸念される有形文化財や消滅や変容が懸念される無形文化財を展示し、人々の関心を高めていきます。</li> </ul>
美術	方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国唯一の菱田春草研究拠点をめざすと同時に、伊那谷の芸術文化の特質を明らかにし、新たな創造力を生み出す展示をめざします。</li> </ul>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菱田春草研究の成果を全国唯一の春草記念室で常設展示するとともに、特別展・企画展を計画的に開催し、菱田春草を顕彰します。</li> <li>・伊那谷の美術の特色と魅力を伝えるコレクション展示、展覧会を開催します。</li> </ul>

		・地域の創造力を高めるために、伊那谷の美術に刺激を与える展覧会を開催します。
プラン タリウム	方針	○オリジナル番組制作のノウハウを発揮して、地域を紹介していきます。
	取組	・「伊那谷の自然と文化」を題材としたオリジナル番組の制作(年1本)と投影を行います。

#### 4. 教育普及

教育普及は、博物館・美術館が教育機関としての役割を果たすための学芸活動です。学びへの支援は、人々の生活文化を豊かにし、まちづくりにつながっていきます。学術的専門性を持つ教育機関として、他の教育機関や市民の学びを支援していく役割が期待されています。

##### (1) 現状と課題

当館は、開館当初から市民団体等と協働して、分野ごとに調査研究の成果を裏付けにして、年100回ほどの講座・講演会・ワークショップなどを行ってきていますが、近年、講座形式の教育普及事業への参加者の固定化や減少といった状況が進んでいる一方で、参加型あるいは体験型、出前型の教育普及事業への参加者や要望は増えています。その要因として、これまでの教育普及事業に参加してきた皆さんが高齢化していることのほか、様々な情報や知識に手軽に接することができるようになるなか、市民の学びへの欲求やアクセスの仕方が知識獲得型から多様化していることが考えられます。

こうしたことから、今後の教育普及においては、講座等の内容や回数を精選する一方、体験型や参加型、出前型の拡充、分野間や他の教育機関と連携した企画、音楽やスポーツ等とのコラボレーションによる企画など、市民の学びの多様化に対応した内容や方法を工夫していくとともに、新たな協働の場を整えていく必要があります。また、専門性の高い教育機関として、学校教育を補完、支援していく取り組みも進める必要があります。

##### (2) 活動方針と主な取組

共通	方針	○市民の学びの多様化に対応するとともに、他の教育機関等との連携した取組を進めます。 ○学芸員の持つ専門性や情報網、人脈をいかした教育普及活動を行います。 ○子供から大人まで、それぞれの学びができるような教育普及活動を展開します。
	取組	・年間計画により、タイムリーな話題や基礎的な内容、当館の研究成果の紹介など、市民のニーズに応える講座や講演会を開催します。 ・参加型や体験型の教育普及プログラムやアウトリーチの機会を増やしていきます。 ・調査研究の成果をまちづくりに生かせるようなプログラムを研究、検討します。 ・学校教育を補完、支援するようなプログラムを、学習指導要領を参考に研究、検討します。 ・個人の学びに応える支援(指導・助言等)を行います。
自然	方針	○オリジナルな教材や現地を利用し、「伊那谷の自然」や科学に関する学びが深まるような教育普及活動を展開します。 ○環境学習や防災教育につながる教育普及活動を継続的に行うことをめざします。
	取組	・子供向けの自然教室、科学工作教室、ワークショップを企画し実施します。 ・伊那谷自然友の会と連携した観察会や行事の開催を継続します。 ・公民館、天竜川総合学習館、子どもの森公園などと連携した取り組みを推進します。 ・環境課等と連携した環境教育、危機管理室と連携した防災教育の支援をおこないます。
人文	方針	○歴史や民俗芸能、文化財等様々なテーマから「伊那谷の文化」を学べる教育普及活動を展開します。
	取組	・藤本四八氏の顕彰を図るため、子ども写真教室や小中高生写真賞の拡充を図ります。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧城下町の建造物や偉人ゆかりの史跡探訪など様々な切り口で見学会を開催します。</li> <li>・継続的に実施可能な体験学習や学校教育との有効な連携方法を研究します。</li> </ul>
美術	方針	○菱田春草の研究拠点にふさわしく、また、伊那谷の芸術文化の振興に寄与する教育普及活動を展開します。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な方法により、菱田春草に関する教育普及活動を進めます。</li> <li>・地域の創造力を高めるために、伊那谷の美術に刺激を与える講座を開催します。</li> <li>・次世代の表現力を高めるために、子供達を対象とした美術講座を開催します。</li> <li>・市民ギャラリーの活用など、市民が芸術活動を発表するための支援を行います。</li> </ul>
プラネタリウム	方針	○世代や目的に応じた良質な投影プログラムを提供します。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常投影のほかに、「プラネタまつり」や天文学宇宙の話題に則した情報を生かした「企画投影」を行います。</li> <li>・小中学校における天文学習を支援するための教員向けプログラムを提供します。</li> <li>・番組制作や全天周映像制作に関する体験型ワークショップを行います。</li> <li>・より多くの市民がプラネタリウムを鑑賞し学べるように、出前投影などの研究を行います。</li> </ul>

## 5. 学芸活動の体制

博物館や美術館の職員は、館長と、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる有資格の学芸員および学芸員の職務を助ける学芸員補の3職種(博物館法第4条・第5条)があります。当館では、学芸員と学芸員補に当たる専門研究員が分野ごとのチームとなって、学芸活動を行っています。

### (1)現状と課題

当館は、開館以来、学芸員を順次採用拡充してきており、現在、自然分野3人(地質・生物・古生物)、人文分野3人(民俗・歴史文化・考古)、美術分野2人(美術全般・近現代美術)の計8人が在籍しています。また、臨時職員として、自然分野で4人(うち1人はプラネタリウム分野を兼務)、人文分野で2人(歴史文化・考古)、美術分野で1人(美術教育)、プラネタリウム分野で3人(うち1人は自然分野を兼務)の計10人の専門研究員が在籍しています。

本計画の期間中には、半数の学芸員が退職を迎えることから、今後は、学芸活動の継続と発展に向けた退職者を計画的に補充するとともに、新規採用学芸員の育成システムを整えておくことが重要になります。

また、近年、学芸員は、まちづくりの支援者としての役割や他の社会教育機関等との連携の推進が期待されるようになっており、研究員には学校教育等を補完、支援する役割が期待されるようになってきています。こうしたことを踏まえて、学芸員と専門研究員の役割分担と協力連携のあり方を整えておく必要もあります。

なお、体制の整備については、「地域振興の知の拠点」の形成や生涯学習・スポーツ課、飯田市歴史研究所との関係なども視野に入れて検討する必要があります。

### (2)活動方針と主な取組

方針	○学芸活動の継続と発展を支える体制を確保し、まちづくりや学びを支援できる職員をめざします。
取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸活動における自然・人文・美術の3分野体制と、各分野における研究領域(自然:地質・生物／人文:民俗・歴史文化／美術:近現代・美術史)を維持し、これまでの蓄積を継続発展させられるように、退職者の補充を行うとともに、学芸員の育成体制も整備します。</li> </ul>

## 6. 管理運営業務

管理運営は、来館者へのサービスや施設設備の管理業務など、施設全体の環境を整え向上させていく重要な任務を担っています。施設を劇場として見てみると、学芸活動が公演に当たり、管理運営業務はお客様に対応する表方と公演を支える裏方に当たると言えます。つまり、管理運営業務は、施設の活動の基盤であり、その評価に直結する大切なものです。従って、管理運営においては、市民に親しまれ必要とされる施設をめざしていくことが基本です。

### (1) 現状と課題

当館の観覧料は、消費税率の改正に伴う改訂を行ったほかは、開館以来の水準を維持し、企画展や特別展等の特別料金もできるだけ低く抑えけるとともに、教育普及活動は原則無料で行っています。また、平成 20 (2006)年に「飯田市美術博物館ロゴマーク」を決定し、「びはく年間パスポート会員」の募集を開始しました。パスポート会員の利用状況は、全国の類似施設と同水準を維持しています。さらに、平成 21 (2007)年3月からロビー空間を無料化するなど、利用者サービスの向上や改善に努めています。しかし、近年、少子化や人口減少に連れて、入館者数の減少が進んでおり、社会情勢や市民のニーズを考慮した観覧料体系の見直しなどが必要になっています。

施設の管理においては、築後 30 年近くを経過する建物や設備機器の改修や更新が大きな比重を占めるようになってきており、計画的に対応していくことが求められています。なお、ポストモダン建築である本館や国の登録有形文化財に登録された柳田國男館は、建物それ自体が文化財であるため、その維持管理には価値を損なわないよう配慮する必要があります。

### (2) 活動方針と主な取組

方針	○常に市民に親しまれ必要とされるように、サービスの充実や向上、計画的な施設設備の整備を進めるなど、よりよい管理運営を心がけていきます。
取組	<ul style="list-style-type: none"><li>・計画的に施設設備の改修や更新を進めます。(更新計画の策定)</li><li>・増加しつつある博物館資料の収蔵保管に必要な収蔵スペースの拡充を図ります。なお、この課題は、当館だけではなく飯田市歴史研究所や飯田市立図書館、生涯学習・スポーツ課等にも共通するものがあることから、教育委員会全体で検討していく必要があります。</li><li>・ICT を活用した来館者等へのサービス提供ができるように、Wi-Fi 等の設置や展示解説情報提供機器の整備に取り組みます。また、プラネタリウム機器等の更新(高細精化)と拡充を図ります。</li><li>・開館以来ほとんど変わっていない観覧料について、社会情勢や全国の類似施設の状況を参考に検討します。また、教育普及事業における適正な受益者負担についても検討します。なお、この問題については、次期飯田市行政改革プランの方針に基づき、類似施設との均衡も配慮して、関係施設が一体的となって検討する必要があります。</li><li>・年間パスポート制度については、会員特典の見直しや更新方法の改善などを行いながら、現状(利用率が観覧者数の1%)の会員数を維持していきます。</li></ul>

## 7. 前中後各期の達成目標と重点的な取組

本計画を着実に達成していくために、前期・中期・後期の各期における達成目標と重点的な取組を定めます。また、第2次飯田市教育振興基本計画が定める活動指標により、各期の取組状況を評価していきます。

### (1) 各期の達成目標と重点的な取組

達成目標と重点的な取組	
前期	<p>【目標】展示の魅力アップと活動体制の整備強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と人文の常設展示の更新と春草記念室常設化を行い、展示の魅力の向上や展示解説の方法や内容の整備を進め、情報発信力の強化を図ります。</li> <li>・学芸活動の継続と発展を確保するための学芸員の採用(退職者補充)を行う等、学芸活動を深化、発展させる体制の整備を図ります。</li> </ul>
中期	<p>【目標】学びの多様化に対応した教育普及活動や情報提供の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの多様化に対応して、展示解説や教育普及活動の内容や方法等の工夫、改善を進めます。</li> <li>・資料データベースを整備するとともに、Wi-Fi環境の整備やICT等を利用した展示解説や教育普及の情報化を図ります。</li> </ul>
後期	<p>【目標】「地域振興の知の拠点」の一翼を担う教育普及活動及び資料センター活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や各教育研究機関との協働を拡充し、学びの多様化とまちづくりに応える取組を進めるとともに、収蔵場所の確保に努め、博物館資料等の活用を図ります。</li> <li>・「伊那谷の自然と文化」のブランド化とPRの全国展開を進めます。</li> </ul>

### (2) 前期4年間の活動指標(第2次飯田市教育振興基本計画の活動指標)

取組の柱11 「伊那谷の自然と文化」の学究・普及・継承・活用を推進する

独自で、多様で、奥深い「伊那谷の自然と文化」をテーマに、市民研究団体等と協働して学術研究、教育普及、保存継承活動を進めるとともに、地域づくりや魅力ある生活文化の創造・発信につなげる取組を推進します。

目 標 値	指標名	現状	目標 (H32年度)	備考
	調査研究報告書等の 発刊件数	16	18	生涯学習・スポーツ課、図書館、美術博物館、歴史研究所における報告書等の発刊数
	教育普及事業実施回数	1,972	2,070	生涯学習・スポーツ課、公民館、図書館、美術博物館、文化会館、歴史研究所における学習・講座の提供数
	美術博物館来館者数	50,910	53,500	美術博物館で把握
指定文化財等の累計	174	185	国・県・市の指定・登録された文化財数	

(注)・第2次飯田市教育振興基本計画では、活動指標を前中後期ごとに策定します。

・この活動指標は、第2次教育振興基本計画の記述をそのまま掲載してあります。

## 8. 前期 4 年間の主な取組

「飯田市美術博物館 2028 基本プラン」の前期4年(平成 29～32 年度)における主な取組をまとめたものです。

部門	主な取組
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南アルプスエコパーク・ジオパークと関連した調査研究を行います。(自然)</li> <li>●散逸の怖れがある有形文化財、消滅や変容が懸念される無形文化財について、優先的に調査記録を行っていきます。(人文)</li> <li>●地区の民俗調査を行い、報告書を刊行します。(人文)</li> <li>●春草記念室の常設化のための春草作品・資料の研究を行います。(美術)</li> <li>●伊那谷の文人文化と美術の調査研究を行います。(美術)</li> <li>●自由画教育についての共同研究を行います。(美術)</li> </ul>
資料の 収集保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料データベースの整備を進めるとともに、より利用しやすいシステムの導入を検討します。(共通)</li> <li>●長谷川コレクションの目録を完成させます。(自然)</li> <li>●学芸員の退職に伴い、管理を担当する収蔵品や寄託品、写真について、管理方法やデータベース等の情報を引き継ぎ可能な状態にしていきます。(自然・人文)</li> <li>●春草記念室の常設化に向けた春草作品・資料の収集を行います。(美術)</li> </ul>
展示公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開館 30 周年に合わせて、常設展示の更新を行います。(自然・人文)</li> <li>●南アルプスの生物に関する企画展を開催します。(自然)</li> <li>●飯田古墳群の国史跡指定記念企画展を、生涯学習・スポーツ課と連携して行います。(考古)</li> <li>●風越山開山 1300 年にあわせて、企画展示を行います。(人文)</li> <li>●地域の動きなどの時機をとらえ、「交易と交流」の視点からの企画展示等を行います。(人文)</li> <li>●市制施行 80 周年記念事業として、春草記念室の常設化を行います。(美術)</li> <li>●自由画をテーマにした企画展を開催します。(美術)</li> <li>●「伊那谷の自然と文化」を題材としたオリジナル番組を年 1 本制作し、公開します。(プラネタリウム)</li> <li>●展示解説の充実に向け、シナリオ作成、スタッフの確保や育成などについて研究します。(共通)</li> </ul>
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>●南アルプスエコ・ジオパークと関連した教育普及活動を展開します。(自然)</li> <li>●南アルプスジオパーク・エコパークビジターセンターの整備を支援します。(自然)</li> <li>●LG教育の一環として、小学生を対象とした現地学習の「地球探検隊」、「子ども科学工作教室」などを開催します。(自然)</li> <li>●藤本四八氏の顕彰を図るため、子ども写真教室や小中高生写真賞の拡充を図ります。(人文)</li> <li>●子ども美術学校等を開催するとともに、小中学校の図工・美術教育への支援を行います。(美術)</li> <li>●市民と協働した創造性のある展覧会等を開催します。(美術)</li> <li>●天文宇宙教育に関する番組やプログラム、教育普及事業を拡充します。(プラネタリウム)</li> <li>●LG教育の一環として、宇宙留学サマーキャンプ等に全面協力します。(プラネタリウム)</li> <li>●各分野の調査研究成果や新しい知見、基礎などを学べる学級・講座を行います。(共通)</li> </ul>
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画的な設備の更新、施設の改修補修を行います。(庶務)</li> <li>●観覧料や受益者負担について検討を進めます。(庶務)</li> <li>●オリジナル番組制作用機材の整備や投影コントロール機器の更新を進めます。(プラネタリウム)</li> <li>●上郷考古博物館のあり方について検討を進めます。(考古)</li> </ul>
分野連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケート調査を集中的に行い、展示公開や教育普及事業の方法を見直す参考にします。</li> <li>●「美博まつり」や「びはく学芸祭」「プラネタリウムまつり」などを継続開催していきます。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●退職する学芸員の業績を継承し発展させるための新規採用を行います。(自然・人文)</li> </ul>



## 飯田市美術博物館がめざすもの

飯田は、日本画の巨匠・菱田春草と、日本の博物館の父・田中芳男の生誕地です。

そして、なにより伊那谷は豊かな自然と芸術・歴史・文化が息づく地域です。

飯田市美術博物館は、そうした地にふさわしい施設として、市民の皆さんとの協働を図りつつ、

〈調べ〉〈学び〉〈蓄え〉〈交流〉の場となることをめざしています。

飯田市美術博物館の基本テーマは、「伊那谷の自然と文化」・「自然と人間とのフュージョン(融合)」です。

明日の飯田市(伊那谷)を心豊かで希望に満ちた地域とするためには、

ふるさとの自然や歴史・文化を深く理解していくことが大切です。

子どもから大人までが世代を超えて交流し、地域を学ぶとともに、新しい価値を創出して広く情報を発信すること、

その一方で、自然と文化遺産の特質を明らかにし、将来に守り伝えていくことが重要です。

そうした役割を担うことをめざして、これからも活動を進めていきます。

平成 19(2007)年策定



地を離れて人なく 人離れて事なし

故に人事を論ぜんと欲すれば

先ず地理を見よ

吉田松陰『幽囚録』